

PC建協だより

PC建協各支部で地方整備局との意見交換会を開催

PC建協各支部では、夏から秋に行った本部主催の意見交換会の成果を踏まえて、各地方整備局と意見交換会を平成26年1月から3月にかけて開催しました。

近年、国の建設予算の縮小により発注量が減少し、建設労働者の工事離れが懸念されている中、東日本大震災からの復興事業、国土強靱化、および東京オリンピック・パラリンピック開催など、社会基盤の再構築が望まれる時代に突入しています。

今日の建設業を取り巻く状況を反映し、どの地方整備局でも技術者、技能労働者不足の問題、工事採算性が合わない事による発注工事の不調の問題、或いは工事機材、材料の不足などが中心のテーマとなりました。その他、構造物の老朽化への対応や、



近畿整備局 PC建協四かが意見交換
監視技術者配置要件緩和を

近畿整備局 PC建協四かが意見交換会を開催し、監視技術者配置要件緩和について話し合った。監視技術者の配置要件緩和については、国土交通省が平成26年7月に告示した。これにより、監視技術者の配置要件が緩和され、監視技術者の不足が解消される見込みである。PC建協四かでは、この緩和要件について、現場での実情を踏まえて、具体的な対応策を協議した。また、監視技術者の育成についても話し合った。PC建協四かでは、監視技術者の育成に力を入れ、監視技術者の不足を解消する方針である。

【日刊建設工業新聞】 2/19

若手技術者の育成などの課題についても意見を交換しました。

平成26年度の本部主催の意見交換会テーマ等決まる

PC建協本部では平成26年度の各地方整備局との意見交換会について、基本となるテーマを次の通り決定しました。

平成26年度PC建協事業計画・予算が決まる/保全補修分野の市場調査の体制強化

PC建協は3月13日に開催された第7回理事会において、26年度の事業計画及び予算を決定しました。全体事業活動の規模は約3億1700万円(受託事業を除く)で前年度比4%の増となっております。

平成26年度は、「新ビジョン2011」の更なる推進を図ることとし、保全補修分野の取り組みの強化等のため組織体制の一部再編を行い、その上で「市場対話」、「技術支援」及び「生産支援」の活動に積極的に取り組めます。

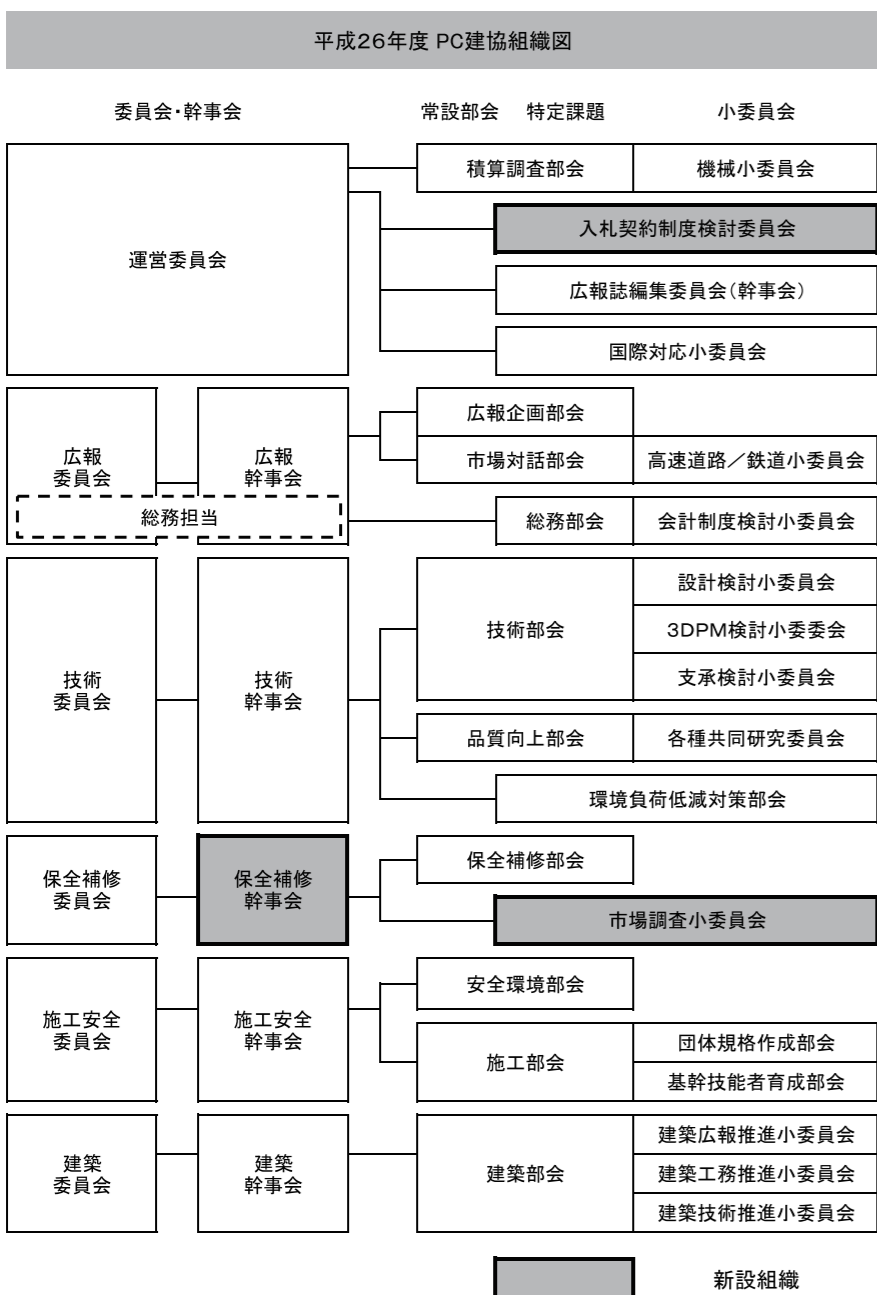
組織の再編の概要は以下の通りです。
・運営委員会の下に新たに「入札契約制度検討委員会」を設置。
・積算調査部を「施工安全委員会」から運営委員会に移管。
・「総務部」を運営委員会から広報委員会に移管。

・研究開発委員会と技術委員会を統合して新たな「技術委員会」としてその下に「技術幹事会」を設置。
・「保全補修幹事会」を新たに設置し、その下に新たに「市場調査小委員会」を設置。
PC建協は、今年度も各発注機関と

の意見交換を重点的に取り組む他、各支部が全国各地で開催する一般市民参加型の現場見学会等により市場対話活動を積極的に推進します。品質確保、既存構造物の長寿命化等の技術課題への取り組みについては、PC橋の初期ひび割れの防止対策に関する共同研究や、撤去橋梁を用いた臨床研究等についての土木研究所との共同研

究を継続して取り組みます。この他、大学等の教育現場に講師を派遣するPC技術専門家派遣事業、保全補修分野の市場動向等を分析する保全補修の市場調査事業、グラウト・品質パトロールを効率的に行う現場品質管理推進事業等、今年度より新たに「本部・支部連携事業」と位置づけた事業に本部・支部が連携して取り

組みます。また、昨年度に策定した「PC推進要綱」に基づき、技能労働者の労務賃金及び社会保険等調査を定期的に実施し、技能労働者の賃金水準の確保と社会保険加入促進を図る取り組みをPC工事業協会とともに積極的に推進します。



1. インフラ長寿命化への対応
〜PCの専門技術力を効果的に活用〜
2. 事業の効率的な執行に向けて
〜PC工事の特性と実態を踏まえて〜
3. 若手技術者の育成
〜魅力的な職場づくり〜

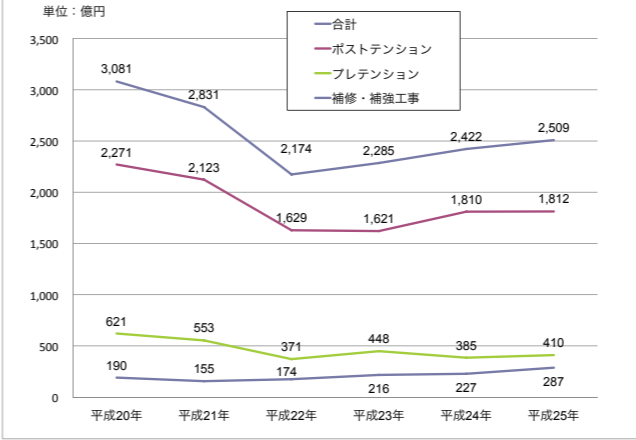
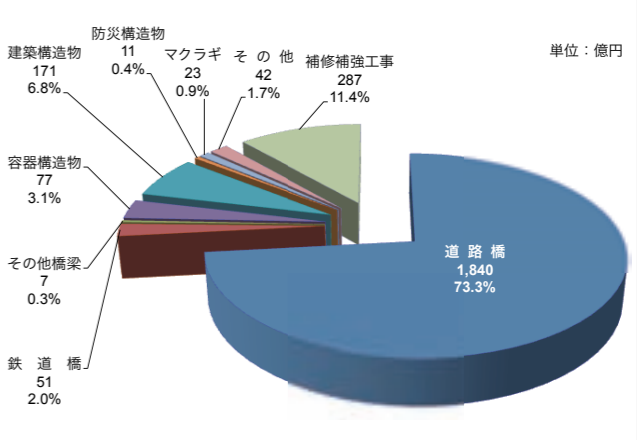
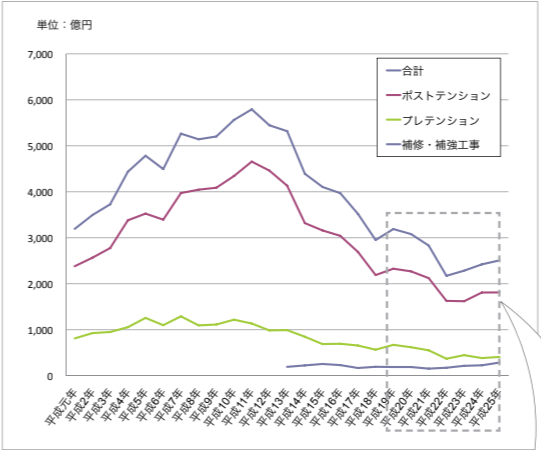
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
北海道開発局	関東地方整備局	近畿地方整備局	中部地方整備局	北陸地方整備局	四国地方整備局	九州地方整備局	中国地方整備局	東北地方整備局	沖縄総合事務局
平成26年9月22日(月)	平成26年9月17日(水)	平成26年9月4日(木)	平成26年8月28日(木)	平成26年8月26日(火)	平成26年8月5日(火)	平成26年7月30日(水)	平成26年7月24日(木)	平成26年7月11日(金)	平成26年7月2日(水)

平成26年賀詞交歓会開催
1月16日ホテルグランドアーク半蔵門において、平成26年新春賀詞交歓会を開催しました。
国土交通省からは足立敏之技監をはじめ幹部の方々、その他多くの関係機関から総勢57名ものご来賓のご臨席を賜り、来場者は470名を超え、新年を迎えて、明るさと活気のみなぎった会となりました。



PC統計(受注実績)

平成25年度PC建協会員のPC関連の受注総額は、平成23年度以降3年連続して増加し、2509億円(対前年度比104%)となりました。用途別で前年度に比べ大きく増加しているものは、補修補強工事287億円(126%)、容器構造物77億円(167%)となっています。



年度別受注推移

平成25年度用途別受注実績

平成26年度技術講習会日程決まる

第22回建築技術講習会

- 平成26年6月18日(水) 13時~17時
 建築会館大ホール
 (東京都港区芝5-26-20)
- ①「燕市新庁舎」
 (PCaPC床版と現場打ちPC庇を用いた免震庁舎)
 (株)梓設計 松浦厚
- ②「東京都立青山特別支援学校」
 (都心部に建設される学校とPCaPC造の計画について)
 (株)INA新建築研究所
 八子雄一・波照間弘之・平林基
- ③「地震と建築物」
 (私の設計手法)
 (株)ジーエスディー 徐光
- ④「三六総合運動公園体育館」
 (プレートグリッドの組み合わせによる空間デザインの提案)
 (株)石本建築事務所清水博正・原健一郎



平成26年度PC工事技能実習

- 第4回PC工事技能実習
 平成26年7月8日(火)~
 平成26年7月11日(金)
 申し込み締切
 平成26年6月13日(金)
 *キャリア形成促進助成金が適用されます。

第42回プレストレストコンクリート技術講習会(PC工学会主催)

- テーマ:インフラのストックマネジメント、将来像と今やるべきこと
- 東京都:平成26年6月3日(火) 津田ホール
- 福岡市:平成26年6月4日(水) 福岡国際会議場
- 新潟市:平成26年6月6日(金) 新潟県自治会館講堂
- 大阪市:平成26年6月12日(木) 朝日生命ホール
- 札幌市:平成26年6月13日(金) ホテル札幌ガーデンパレス
- 広島市:平成26年6月17日(火) 広島市西区民文化センター
- 高松市:平成26年6月18日(水) ホテルパールガーデン
- 仙台市:平成26年6月24日(火) イズミテイ21

●名古屋市:平成26年6月26日(木) ウィル愛知大ホール

特別講演

- A 「建築物のストックマネジメント」
- B 「高速道路における橋梁の損傷と保全」
- C 「鉄道構造物の維持管理の変遷と現在の取り組み」
- D 「PC構造物の高耐久・保全に関するガイドライン」
- E 「PCサステナビリティ委員会活動報告」
- F 「海外のPC技術の動向」



PC技術試験講習会(PC工学会主催)

●東京都:平成26年9月1日(月) アルカディア市ヶ谷私学大会館
 *詳細はPC工学会HPをご参照ください

PC建協ホームページ更新のお知らせ

PC建協では、PC技術の理解者とファンを増やすために様々な機会を利用してPC技術の素晴らしさを広くアピールしています。現在、新たな試みとして、各地で開催されている技術講習会、現場見学会、そして大学生を対象としたPC技術専門家派遣事業(出前講座)等の活動内容を順次、ホームページにアップし充実させています。また、これまで発行してきました「PRESTRESSED CONCRETE YEARBOOK」は2012年をもちまして廃刊し、ホームページに作品集として検索機能を付けた完成した構造物を紹介しています。更に、PC技術の活用に関して、適用事例(施工実績)、積算体系、技術指針等についてデータの追加、更新を随時行うとともに、新たなガイドライン、マニュアル等の整備も進めて行く予定です。

PC建協では、今後も価値の高い情報の提供、定期的な更新を進め、皆様に満足して活用していただけるようなホームページとしていきたいと考えております。



<http://www.pcken.or.jp/>

編集委員会

木下 賢司(編集委員長)、 榎福 浄(編集副委員長)、 有馬 浩史、 竹本 伸一、 鈴木 義晃、 的場 純一、 松嶋 憲昭、 小山 康寛、 高松 正伸

編集後記

今回の特集は、三陸鉄道が、4月6日に全線開通になったことにフォーカスを当てました。三陸鉄道は、昨年の流行語大賞に輝いた「じぇいじぇ」の「あまちゃん」が有名です。「あまちゃん」ファンである取材班は、内心大喜びで、三陸鉄道の取材に加えて「あまちゃん」の舞台となった小袖海岸、久慈駅、および掘内駅なども取材しました。特別企画は、第3回および第4回新ビジョン推進委員会においての議論を掲載しました。第3回では、「設計分野から見たPC技術の普及の課題」、第4回では「建築でのPC普及について」という議題で、PC建協が目指すべき方向性について活発な意見が交わされました。「こんなところにPCが!」ではPC建築、「明日を築くプロジェクトの風景」では圏央道、およびLNGタンクのPC技術を取り上げています。本誌をご覧になったすべての方が、多種多様に使用されているPC技術に興味を持ち、PCのファンになっていただけることを願っています。(記:胡)